

公益財団法人 公害地域再生センター(あおぞら財団)

2024(令和6)年度 事業報告書

目次

I. 2024年度の総括.....	1
II. 個別事業.....	2
II-1 「環境・福祉・防災・文化・生業」の視点から、西淀川の地域再生に取り組む.....	2
II-2 公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる.....	9
II-3 公害経験を伝える国際交流.....	14
III. 情報発信・提案活動・交流.....	15
IV. 組織.....	17
V. 財務.....	15

I. 2024 年度の総括

2024 年度においても、①「環境・福祉・防災・文化・生業」から、西淀川の地域再生に取り組む、②公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる、③公害経験を伝える国際交流（情報発信・研修）が事業の 3 本柱として取り組んだ。それぞれの分野での重点事業の概要は以下の通りである。

第 1 の柱である「環境・福祉・災害・文化・生業」から西淀川の地域再生に取り組むという点では、西淀川区内の地域資源（もと歌島橋バスターミナル、大野川緑陰道路、淀川河川敷、福駅周辺など）を活かした地域活性化に貢献する取り組みを継続的に実施した。また、「西淀川・地域再生研究会」での検討も踏まえて、清水理事が「公害地域再生」とは何か～大阪・西淀川「あおぞら財団」の軌跡と未来～」を本年 2 月に出版された。西淀川交通・道路環境再生プラン・提言 part7 の作成については、引き続き作成に向けて検討を続けている。地域防災・減災に関する事業も、にしよど親子防災部を中心に継続的な活動を行っている。西淀川区からの委託事業であるまちづくりセンター業務は、区内の各地域からの信頼を得る中で支援活動を行った。さらに、みてアートなどの文化再生事業も、西淀川区からアート事業を受託するなどして地域に定着した事業として進められている。

第 2 の柱である公害の経験から学び、未来を創る市民を育てるという点では、講師派遣は区内の小学校など 13 件、研修受け入れでは、環境省や大学ゼミの研修など 19 件を受け入れるなどし、2020 年度にスタートさせた西淀川・公害と環境資料館の資料集の作成については、いよいよ 2025 年度の完成、出版が予定されている。

第 3 の柱である国際交流事業では、引き続き大気汚染公害が続くアジア諸国（中国、インド、ベトナム等）の NGO や専門家と協働した交流事業を進め、中国からは環境 NGO とともに、初めて子ども達の訪日・交流を行うことができ、ベトナムからもはじめて来日しての交流活動を行い、2 回目のインド訪問では今後の交流・ネットワークづくりの方向性を確認できた。

また、財団運営の面では、職員間のコミュニケーションの円滑化とともに業務執行の効率化を図るとともに、ここ数年は、厳しい財政状況のなかで一定の財政改善がみられている。

II. 個別事業

II-1 「環境・福祉・防災・文化・生業」の視点から、西淀川の地域再生に取り組む

2024年度目標

- 様々なステークホルダーとの協働を行い、地域の視点から現状・課題・展望を整理し、2025年大阪万博の開催も視野に入れて、西淀川地域の資源（もと歌島橋バスターミナル跡地、西淀川高校跡地、福駅周辺、空き家などの未利用地）を活用した新たな地域再生プロジェクトの策定などの将来マスタープランづくりや、その実現に向けたロードマップづくりを進める。
- 大気環境の改善、公共交通の利用者の減少等を踏まえて、改めて、他団体とも協働し、今後の交通のあり方の検討を進める。

2024年度取り組み

26 地域づくり推進・再生

1. 地域再生：地域資源の活用によるまちづくり

①事業のねらい

- 地域資源の現状・課題を整理し、住みたいまち、働きたいまち、安心できる暮らし、うるおい・文化のあるまち、誰もが生きやすいまち、公害を教訓とした環境再生のまちづくりを進める。

②実施内容

- もと歌島橋バスターミナルにおいて、ミニ四駆大会（4月）、西淀川ボランティアエキスポ（5月）、フリースケート（6月、7月、9月、3月）、赤サバイベント（7月、10月、11月、2月）、みてアート（11月）が開催され、新たな地域交流拠点として定着したが、2026年春より商業利用が予定されている。
- 阪神電車高架化後の福駅周辺のまちづくり構想を検討する、福駅周辺活性化協議会を2022年6月に発足、2023年10月より大阪市専門家派遣制度を活用中。昨年に引き続き、大阪公立大学「EJ ART」プロジェクトで福地域を舞台に作品作りを行なった。駅周辺の活性化を目指して、福ハッピーフェスタ（5/12、7/7、12/8）、にしよどがわシーサイド桜まつり（3/29）を開催した。
- 2019年4月より、大阪市立大学・除本理史教授、龍谷大学・清水万由子准教授の協力により、西淀川区を中心に、大阪の経済・産業（特に製造業）の将来像について検討する「西淀川・地域再生研究会」を開催した。同研究会の議論も踏まえて、清水氏が「公害地域再生」とは何か～大阪・西淀川「あおぞら財団」の軌跡と未来～を2025年2月に出版。

③成果と課題、今後に向けて

- 西淀川区内の地域資源（もと歌島橋バスターミナル、大野川緑陰道路、淀川河川敷、福駅周辺など）を活かして、地域の活性化に貢献する取り組みに実施し、様々な団体や個人の協力を得て、継続的に活動を行うことができた。福駅周辺については、専門家派遣制度により活動資金の確保ができた。持続できる体制づくりが今後の課題である。

2. 交通再生：交通マネジメントセンター機能の強化

1) 西淀川における「人にも環境にもやさしい地域交通まちづくり」の推進

①事業のねらい

- ・ 患者会の願いである「手渡したいのは青い空」を実現するために、人にも環境にもやさしい地域交通まちづくりを目指して、西淀川道路環境対策連絡会、実務者ワーキング会議を通じて、原告、弁護団と協働で取り組む。

②実施内容

- ・ 8/5 のワーキング会議では、PM2.5 が 5 年連続で西淀川区内のすべての測定局において環境基準を下回ったことを確認した。また、二酸化窒素についても、西淀川区内のすべての測定局において環境基準の下限値を下回った。環境ロードプライシングのPR、大阪・関西万博開催に伴う影響等について議論した。
- ・ 西淀川道路交通環境再生プラン会議を再開し、新型コロナの影響・公共交通の利用者減を踏まえ、脱炭素社会に向けて、他団体とも協働して、今後の交通のあり方を検討し、西淀川交通・道路環境再生プラン・提言 part7 の作成を進めた。

	項目	日程
道路連絡会	実務者ワーキング 1 回目 (大気、交通量等)	8/5
	実務者ワーキング 2 回目	1/29
	道路連絡会準備会	2/19
	道路連絡会	3/12
研修	大阪大学交通まちづくり学授業	5/13

③成果と課題、今後に向けて

- ・ PM2.5 濃度が 5 年連続で環境基準をクリアし、二酸化窒素が環境基準の下限値を下回る等、大気汚染は改善しつつある。
- ・ 西淀川道路交通環境再生プラン会議を再開し、提言 part7 策定を進めていく。

35 自転車文化

37 タンデム自転車

2) 自転車を活かしたまちづくりの推進

29 CCSP

23 西中島自転車

①事業のねらい

- ・ 大気汚染や渋滞などの深刻な交通問題を引き起こす車の代替手段として、環境にも健康にもやさしい自転車の利用の推進をはかる。
- ・ 誰もが移動しやすい交通環境づくりを目指して、移動困難者を対象としたユニバーサル・サイクルの調査・提案、情報発信を行う。
- ・ 他団体・個人と協働した「御堂筋サイクルピクニック」・「おおさか自転車文化タウンづくりの会」の実施を通じて、大阪における自転車まちづくりの推進を図る。

②実施内容

- ・ 自治体等からの依頼により、子ども自転車教室、インクルーシブサイクリング体験会などを企画、実施。
- ・ 9/23 に大阪サイクルピクニック (自転車文化タウンづくりの会) を開催、約 100 台で御堂筋をアピール走行 (来場約 300 名)。
- ・ SDGs 万博市民アクションに参加し、大阪・関西万博に関する意見交換、サイクリングルートの検証などをおこなった。

項目	内容	日程	参加人数
自転車文化タウン	第3回大阪サイクルピクニック	9月23日	300人
市民自転車学校プロジェクト	堺区子ども自転車教室	5/11、9/28、 11/30、3/8	240人
	堺市子ども自転車教室 in TOJ	5/19	29人
	京都市インクルーシブサイクリング体験会	10月19日	41人
	CMA 子どもサイクリング教室	3月16日	雨天中止
インクルーシブ・サイクル	タンデム自転車の貸し出し	通年	

③成果と課題、今後に向けて

- ・快晴の下、大阪サイクルピクニックを開催できた。御堂筋の道路空間再編や大阪・関西万博 2025 に向けて自転車道が整備される予定のため検証していく。
- ・子ども自転車教室、タンデム自転車の体験会を開催することができた。
- ・全国的にニーズが高まっており、対応できる体制づくりが求められている。

3. 安全再生：防災まちづくりの推進

33 親子防災

15 災害支援

①事業のねらい

38 防災まちづくり

- ・大阪湾岸地域は、典型7公害の1つである地盤沈下のために、津波や水害のリスクが高くなっており、南海トラフ巨大地震や近年頻発している水害などの災害に備え地域の防災力を高める必要がある。そのために、西淀川地域をはじめ、各地区の多様な主体と協働し、防災まちづくり、防災教育の取り組みを進める。

②実施内容

- ・西淀川区令和6年度地域防災・減災に関する連携強化事業を受託し、①若年層への防災意識向上への取組み、②避難行動要支援者避難支援の取組みを行っている。あおぞら財団が培ってきた地域防災に関するネットワークや教材（防災絵本やかるた等）を用いて事業を遂行している。
- ・外部の組織と連携して活動している「にしよど親子防災部」（事務局：あおぞら財団）では、防災さんぽや防災かるた大会等のイベントを実施する等、防災の啓発活動を積極的に実施している。

項目	内容	日程	参加人数
西淀川区地域防災・減災に関する連携強化事業	①若年層への防災意識向上への取組み		
	・佃中学校全学年 防災授業	7/8	420人
	・西淀中学校全学年 防災授業	9/4	470人
	・姫島小学校4年生 防災授業	9/10	75人
	・野里小学校4年生 防災授業	9/11	40人
	・御幣島小学校5年生 防災授業	9/19	90人
	・野里小学校6年生 防災授業	9/25	55人
	・歌島中学校1年生 防災授業	10/18	220人
	・歌島中学校2,3年生 防災授業	10/28	440人
	・香叢小学校全学年 防災授業	11/24	160人
	・出来島小学校全学年 防災授業	11/30	210人
	・段階的防災教育プログラムの作成		
	・動画5本作成（防災さんぽ、防災漫才）		
②避難行動要支援者避難支援の取組み			
1回目 避難支援推進会議	7/1		

	第1回 福祉避難所連絡会 第2回 福祉避難所連絡会 個別避難計画研修会 福祉避難所合同訓練 2回目 避難支援推進会議	6/3 8/19 10/1 11/11	
にしよど親子 防災部	ミーティングの開催	5/1、9/17、 10/2	約10人
	にしよど防災さんぽ	4/6	10
	ボランティアエキスポ	5/19	100
	防災ワークショップ ライフポーチをつくろう!	6/30	15
	にしよど防災かるた大会	8/6	子ども 57 大人 15
	にしよど防災ロゲイニング	12/7	子ども 10 大人 18
	防災クッキング	3/2	子ども 12 大人 12

③成果と課題、今後に向けて

- ・西淀川区地域防災・減災に関する連携強化事業では、今年度は段階的防災教育プログラム西淀川モデルを西淀川区内全体の中学校、小学校の取組みに拡充した。継続した取組みになるように、学校で取り組みやすいプログラムの作成、学校への働きかけを行う。
- ・今年度発足したジュニア防災リーダークラブは、地域での防災の担い手育成を目標にしている。次年度、活動を通して防災への関心や主体的な行動力の向上を促すよう、支援を行う。
- ・にしよど親子防災部では、親子で防災を学び実践する場として、引き続き活発な活動を展開している。しかしながら、活動を持続可能なものとするためには、新規メンバーの確保と活動資金の安定的な確保が課題である。

4. 健康再生：地域での呼吸ケア・リハビリテーションの普及

61 公健法実態調査

62COPD プロジェクト

①事業のねらい

- ・呼吸ケア・リハビリテーションに係る医療従事者等の人材を育成・活用することで地域の患者へのプログラムの充実及び地域住民への COPD に係る情報発信を強化し、これにより COPD 患者の早期発見及び QOL の向上を図ることを目的とする。

②実施内容

- ・呼吸器疾患の患者向けに「楽しく呼吸会」を隔月開催し、自己管理、運動、栄養、薬などの面から呼吸ケア・リハビリが学べるプログラムを実施する。1月には環境再生保全機構と協働し、気道の炎症状態を評価する Fe NO 検査を実施した。
- ・COPD（慢性閉塞性肺疾患）の早期発見への取り組みとして、西淀川区のがん検診時に肺年齢測定を2回実施した。
- ・西淀川区の健康イベントに参加し、肺年齢測定を実施し、COPD の早期発見、啓発活動に取りくんだ。

項目	内容	日程	参加人数
楽しく呼吸会	みんなで歩こう 矢倉公園	5/17	9
	自己管理・呼吸筋ストレッチ体操	7/12	12
	栄養について	9/13	8
	呼吸リハビリ、運動、体力測定	11/15	10
	お話会、FeNO 検査、呼吸筋ストレッチ体操	1/24	22
	薬について	3/14	8

肺年齢測定	西淀川区のがん検診時に実施	6/22	29
		8/29	16
西淀川区講演会 & 健康体験イベント	肺年齢測定	2/3	16

③成果と課題、今後に向けて

- ・患者向けの呼吸ケア・リハビリテーションについては、びわこリハビリテーション専門職大学の千住先生、淀川勤労者厚生協会など外部の協力を得ながら、実施している。参加者が少なく、活動の費用の確保の面で課題がある。
- ・参加者が少なく、十分な広がりを持った活動とはなっていない他、活動の費用の確保の面で課題がある。次年度は、より多くの患者に情報が届くようにするために、環境再生保全機構の協力を得て、楽らく呼吸会のオンラインでの配信を予定。

5. 交流再生：地域の交流（コミュニティ）再生、交流拠点の活用

1) 交流拠点（イコバ）

①事業のねらい

31 交流拠点（イコバ）

- ・2010年12月に開設した地域交流スペース「あおぞらいコバ」を活用し、定期的な企画展やイベント開催、ホームページやチラシなどの情報発信によって、認知度を高め、利用者増を図る。

②実施内容

- ・レンタルスペースとして随時貸出をおこなった。
- ・あおぞら市は、毎月第二、第四水曜日に実施している。安価な手作り野菜、天然酵母パン、マッサージなどの出店者があり、利用者には好評である。
- ・小学生や中学生に学習支援をおこなっている「無料塾」に継続してあおぞらビル3階や5階を毎週金曜日の夕方に、無料で貸し出しを行った。
- ・あおぞらいコバは、「にほんごカフェ」（主催：西淀川区地域福祉計画・地域福祉活動計画、西淀川ささえあいプラン「にしよどウェルカムバンク」）による利用（月2回）や、西淀川地域の情報発信をおこなう「ニシヨド編集部」の利用（不定期）、フルーツ教室が継続された。新規では、マルシェ（年2回程度）、英語教室（毎月3回）、書道教室（毎月1階）の利用が増えた。

③成果と課題、今後に向けて

- ・新規が増えるなど、地域の人に利用されるようになってきている。あおぞら財団事務所移転に備えて、準備をしていく。

2) 西淀川区まちづくりセンター業務

①事業のねらい

27 まちづくりセンター

- ・西淀川区からの受託している西淀川区まちづくりセンターの業務を通して区内の地域活動の支援を行う。

②実施内容

- ・令和6年度「大阪市西淀川区における新たな地域コミュニティ支援事業」を街角企画株式会社、有限会社OM環境計画研究とともに受託。西淀川区まちづくりセンターの設置・運営し、アドバイザー藤江、スタッフ（鎗山・谷内）として区内地域活動を支援。

③成果と課題、今後に向けて

- ・ 2018年度から7年目となるまちづくりセンター業務であるが、各地域との信頼関係の下、支援活動を行った。

3) その他 地域づくり推進業務

①事業のねらい

- ・ 子育て、外国籍住民との共生、ものづくり、福駅周辺活性化、空き家・跡地利用などの地域の様々な取り組み、団体と連携するとともに、西淀川区の地域福祉計画・地域福祉活動計画等にも協力する。

②実施内容

- ・ 「西淀川区地域福祉計画・地域福祉活動計画 西淀川ささえあい♡あいプラン」に基づく部会の一つ「ウエルカムバンク～ウエルカムな気持ちを預けるバンク～」部会に協力し、にほんごカフェ開催（月二回）など、多文化交流を進めている。
- ・ 2022年度に引き続き、2023年度「外国人と共に暮らし支え合う地域社会形成」をテーマに新型コロナウイルス対応緊急支援助成（休眠預金）の資金分配団体として、認定NPO法人日本都市計画家協会（JSURP）とともに採択され、募集・審査、実行団体の決定、伴走支援を行った。

③成果と課題、今後に向けて

- ・ 外国籍住民との共生を目指した「にしよどウエルカムバンク」活動では、あおぞら財団に事務局を置き、大阪市ボランティア活動振興基金の助成金を受けて、区内日本語学校などとの協力関係が広がった。

6. 文化再生：西淀川の資源を活かした環境文化をつくる

28	音楽祭
----	-----

1) みてアート・にしよど音楽祭

81	みてアート
----	-------

①事業のねらい

- ・ 西淀川を市民が地域（フィールド）全体から地域の歴史、文化、ものづくりを楽しむことができるフィールドミュージアム構想の具体化事業の一つとしてアートイベント「みてアート」、「西淀川アートターミナル（NAT）」を実施。アートをきっかけに、西淀川地域の様々な資源を掘り起し、西淀川区の人達が出会い交流し、新たな地域文化を育むことを目指して、地元企業や様々な団体・個人と協働して開催。

②実施内容

- ・ みてアート2024を11月2-3日に開催（40拠点が参加）。
- ・ 西淀川区アート事業を受託し、みてアート（11月）に併せて実施。
- ・ 2023年度より、西淀川区制100周年（2025）に向けて、にしよど音楽祭をスタートし、2024年度も、8月に親子コンサート、野外音楽祭（11月）、庄野真代コンサート（2月）を実施した。

③成果と課題、今後に向けて

- ・ 12年目となった「みてアート」は新たな体制で市民参加型アートイベントとして実施することができた。引き続き、NAT企画展と併せて、継続していく。

- ・ 二年目となる、にしよど音楽祭ではアーティストや様々な団体の協力し、実施することができた。引き続き、地域の音楽文化の醸成につなげていく。

2) 身近な自然を活かしたイベント

25 身近な自然イベント

①事業のねらい

- ・ 西淀川の身近な自然を活かしたイベントを通じて、多くの人が西淀川地域の自然環境や歴史に触れる機会をつくる。

②実施内容

- ・ 「矢倉海岸・緑陰道路探鳥会」は野鳥の会大阪支部との共催で年に3回実施する(4/21、9/1(台風のため中止)、3/16)。探鳥会を西淀川区と民間企業等との協働事業として実施することになり、区報を活用して広報を行った。
- ・ 9月28日(土)に「第12回淀川環境美化・西淀川親子ハゼ釣り大会 ～SDGsをはじめのさいしょの第1歩～」を実行委員会形式で開催。約50名の参加者は例年を上回る釣果を得て、楽しみながら身近な自然に親しみ、SDGsを学ぶ機会となった。

③成果と課題、今後に向けて

- ・ ハゼ釣り大会は、引き続き、実行委員会形式で他団体と協働で継続していく。
- ・ 探鳥会は、引き続き、野鳥の会大阪支部と共同で年に3回開催する。

3) 菜の花プロジェクト

22 菜の花

①事業のねらい

- ・ 持続可能な社会づくりを目指して、「エコでつながる西淀川推進協議会」と協働で、西淀川菜の花プロジェクトとして、廃油回収システムを継続し、菜の花栽培などの啓発活動を適宜、実施する。

②実施内容

- ・ 継続的に廃油回収拠点として回収事業を実施している。

③成果と課題、今後に向けて

- ・ 継続的に廃油を持参してくれる人がおり、環境負荷を減らす取り組みとして定着している。バイオ燃料としての活用や廃食用油回収が大阪万博 EXPO グリーンチャレンジに取り上げられることになり、改めて注目されている。

11 JEC 管理

26 地域づくり推進

34 啄木鳥プロジェクト

39 太陽光発電

82 多文化共生

4) その他

- ・ 西淀川の良さや面白さを SNS 等で発信・共有する「おもしろいわ西淀川」を行っている。西淀川区の魅力発信サポーターとの連携もしており、西淀川区の広報紙に隔月で連載している。
- ・ 日本環境会議 (JEC) の会員・会費管理の業務を 2020 年度より請け負っており、2024 年度も引き続き業務を行った。

II-2 公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる

2024年度の取り組み

- 行政、医療機関、大学などの研修の受入れ、講師派遣などのほか、西淀川公害に関する動画や気候変動・防災・公害等を学べる教材の広報を行い広く普及を目指す。また、大学のゼミ等との協働の取り組み等、単発ではない長期間にわたった研修・教育に継続的に取り組む。
- 資料館業務については、資料集の作成を進めるとともに、日常的な業務（資料整理・保存・活用）を見直し、持続可能な体制づくりを図る。COVID-19 感染予防を図りつつ、受託業務として、記録で見る大気汚染と裁判 HP、淀川勤労者厚生協会の所蔵資料の整理・活用業務などを進める。

1. 公害教育・研修センター機能の強化

1) 教育・研修の推進

(1) 講師派遣・研修受入

52 教育・研修推進

①事業のねらい

- ・ 公害の経験から学ぶ研修を軸にしつつ、あおぞら財団の活動を総合的に生かした講師・研修受入の可能性を探る。研修受入については、主に近畿圏の大学教員への発信・働きかけを強め、新規開拓をする。
- ・ 理事等の協力を得て、地域再生の取り組みや、防災研修・(一社)市民自転車学校プロジェクト(CCSP)などのまちづくり事業の蓄積を積極的に活用し、講師などの人材育成に取り組む。

②実施内容

- ・ 公害教育の担い手を育成するため、教員研修への講師派遣や独自企画を検討する。
- ・ 西淀川区内の小学校での出前授業を実施する。まちづくり部門と連携して、西淀川区内の中学高校とのつながりを強化する。
- ・ 「きんき環境館マルチセクターボード」(近畿地方ESD活動支援センター)、「ESD近畿会議」(事務局:エコネット近畿)などの近畿圏の環境団体の活動に協力する。
- ・ 講師派遣 年間派遣数 14 件(前年度 11 件)、受講者 1185 人(前年度 960 人)

分野	内容	日程	人数
公害	淀協新人研修(担当:谷内)	4/3	32
地域づくり	大阪大学「交通まちづくり学」(谷内)	5/13	43
地域づくり	風の子学童クラブフードマイレージ(藤江)	8/8	17
地域づくり	地震学会 野外観察会講師(藤江)	8/22	26
公害	大阪市新人教職員研修	8/23	67
防災	姫島小学校4年生 防災授業	9/10	75
防災	野里小学校4年生 防災授業	9/11	40
防災	御幣島小学校5年生 防災授業	9/19	90
防災	野里小学校6年生 防災授業	9/25	55
防災	歌島中学校1年生 防災授業	10/18	220
防災	香籠小学校全学年 防災授業	11/24	160
防災	出来島小学校全学年 防災授業	11/30	210
防災	出来島支援学校 中学部・高等部	1/17	119
公害	香籠小学校5年生 公害出前授業	3/5	31

※防災、地域づくりは再掲

・研修受入 年間受入数 19 件：前年度 20 件、受講者 281 人（前年度 304 人）

分野	内容	日程	人数
公害・地域づくり	龍谷大学政策学部清水ゼミ（藤江・鎗山・谷内）	通年	
公害	大阪から公害をなくす会フィールドワーク	5/11	27
公害	環境省職員「環境問題史現地研修」オンライン事前研修	5/23	33
公害	環境省職員「環境問題史現地研修」	5/30-/31	33
公害	関西環境教育学会 研修受入れ	6/1	8
公害	大阪医科薬科大学（公衆衛生学実習）	6/11-12	14
防災・地域づくり	関西大学社会安全学部越山ゼミフィールドワーク	6/15	12
国際交流	中国「善芸プロジェクト」研修受け入れ	8/1	30
公害	龍谷大清水ゼミ フィールドワーク	9/4	14
公害	立命館大学石橋ゼミ	9/5	12
公害	龍谷大清水ゼミ WS、公害語り部	9/6	11
公害	公立大研修、西淀川保険センター	9/11	6
公害	市川国際奨学財団留学生研修	9/12	9
公害	日本弁護士連合会 公害環境委員会 西淀川 現地研修	10/12	8
公害	追手門学院大学社会学部社会問題コース フィールドワーク	11/16	5
公害	大阪公立大学「都市基盤計画特論」全 5 回	11/26~3/25	30
公害	知多北部公害防止対策連絡協議会の研修受入れ	12/26	8
公害	ベトナム環境 NGO 研修受け入れ	1/22-1/24	2
公害	中国環境 NGO 研修受け入れ	2/12-2/14	10
公害	東アジア気候訴訟関係者訪日プログラム 訪問受け入れ	3/7	9

※防災、地域づくりは再掲

③成果と課題、今後に向けて

- ・環境省職員研修の受入れを行うことができ、公害行政の担い手が公害地域の現状を深く理解する一助となった。
- ・講師派遣および研修の依頼は継続のものが多く、新規の依頼を広げることができていないことが課題である。

(2) 教材開発・研修プログラム等の整備・普及

54 公害半世紀

56 教材・パ
ネル貸出

①事業のねらい

- ・今までに作成した教材（フードマイレージ買い物ゲーム、公害ロールプレイ、気候変動ハンドブック、動画等）の貸し出しや普及、web ページでの公開をすすめる。
- ・公害に係る当事者への聞き取りを行い、記録化（動画・文章）をすすめる。聞き取った記録を「オーラルヒストリー」としてまとめ、web ページで公開する。
- ・SDGs の観点から、防災や自転車推進など地域づくりで作成した教材を研修プログラムと連携して活用する。

②内容

- ・研修・教育のホームページにおいて、教材の概要を記載し、ダウンロードできるようにデータの整理・公開をしている（https://aozora.or.jp/kougai_lecture/tool/）
- ・地球環境基金助成事業「『公害』半世紀 資料・記憶を未来へつなげる環境教育プログラム」として、大気汚染公害経験からの学びを出発点として地球温暖化問題へ実践的に対応していくための教材・教育プログラムづくりを進める。環境・公

害教育に関わる研究者を員とした研究会を開催し、教育プログラムを検討した。令和6年度はフィールドワーク研修の内容を伝えるパンフレットおよび動画を作成した。

- ・ 公害患者の家族、元医療従事者、西淀川住民、弁護士の4人に話を聞き、過去の西淀川の公害について関する記録化をすすめる。記録化にあたっては、龍谷大学清水ゼミの協力を得て行った。

内容	記録方法	協力
10/12 元医療従事者へのインタビュー	文章	龍谷大清水ゼミ
10/18 公害患者の家族へのインタビュー・撮影	動画・文章	龍谷大清水ゼミ
10/18 西淀川住民へのインタビュー	文章	龍谷大清水ゼミ
3/5 西淀川区公害補償担当者へのインタビュー	動画・文章	—

- ・ フードマイレージの貸し出し 2件

内容	貸し出し時期
龍谷大学政策学部	4月
大阪調理製菓専門学校	4月
(公財)交通エコロジー・モビリティ財団	11～3月

③成果と課題、今後に向けて

- ・ 作成した教材をホームページで公開し、ダウンロード可能な形で整備している。フードマイレージゲームの貸し出しも実施し、一定の活用が進んでいる。
- ・ 教材の存在や活用方法が十分に知られておらず、広報・普及が課題である。また、記録化したオーラルヒストリーの発信体制の整備も今後の課題である。今後は発信手段の工夫と活用促進を図る。

(3) あおぞら財団としての公害・環境教育・研修のあり方に関する検討

52 教育・研修推進

①事業のねらい

- ・ あおぞら財団役員・職員、及び、関係者に呼びかけて、あおぞら財団の公害・環境教育・研修のあり方の現状の確認し、今後のあり方についての検討する場を設ける

②実施内容

- ・ あおぞら財団の研修に関する定例会を2か月に1回の頻度で開催する。(7/18、9/6、11/18、2/21に実施)
- ・ 定例会では、今後の研修の進め方、研修の方針などについて検討する。

③成果と課題、今後に向けて

- ・ 引き続き、定例会を開催し、今後の研修の進め方や作成した教材について組み合わせを含めて活用や普及方法を検討する。

2. 西淀川・公害と環境資料館（エコミュージズ）の運営

1) 西淀川・公害と環境資料館の資料管理・資料活用をすすめて、利用者を増やす

41 資料館運営

42 資料館基金

48 資料集作成

①事業のねらい

- ・ 西淀川・公害と環境資料館が日常的に運営を継続する。そのために、西淀川・公害と環境資料館（エコミュージズ）の資料の整理を進める。
- ・ 資料館を地域の人に使ってもらう、関心をもってもらえるよう、みてアートなど地域イベントへの参画、地域資料を用いた企画展の開催などを行う。

- ・ 資料館が有する既存資料をもとに、資料館にどのような資料があるのか、その資料からどのようなことが分かるのか、を改めて、広く知ってもらうため、また、多くの方に資料を活用してもらえるように資料集の作成を行う。
- ・ 淀川勤労者厚生協会の所蔵資料の整理・活用業務に関しては、COVID-19の感染予防に配慮した上で、資料の整理・保存・活用を検討する。

②実施内容

- ・ 来館者 2024年度 446人 累計(2006年開館から) 7,425人(3/31時点)
- ・ 資料の整理・目録作成作業、文書箱への移し替えを順次進めた。
入力点数 大目録0(累計2,962)、細目録87(61,581) (3/31時点)
- ・ 新規で受け入れた資料は、2024年度は写真資料が多くあり、借用後、電子化し、返却する予定にしている。
- ・ 資料集作成に向けて、エコミューズ所蔵の資料を検討する勉強会を2021年10月から月1回のペースで行っている。4/25、5/27、6/24、7/22、8/19、9/19、10/21、1/20、2/17、3/17
- ・ 専門家からなる「資料集編集委員会」を開催し、資料集について検討を行っている。メンバーは小田館長、佐賀朝氏(大阪公立大学教授)、松岡弘之氏(岡山大学文学部准教授)。4/22、6/17、9/30、11/25、1/27、3/21
- ・ 小田館長が週1回のペースで来館し資料調査と資料集作成作業を行った。約6万点ある所蔵資料の中から、一次調査にて約280点の資料を選定した。その後、ハンディな書籍版とするために、約140点にまで絞り込み、掲載予定の資料の翻刻をすべて終えることができた。第1章から第6章の構成立てとなっており、各章の解説を作成中である。
- ・ 2024年8月からは作業過程を発信していこうと、「エコミューズ館長日記」をブログで開始し、21回投稿した。(3/31時点)
<https://aozora.or.jp/archives/category/ecomuse/ecomusediary>
- ・ 頁数の制約の都合、書籍版の資料集には掲載できなかった資料をインターネットで閲覧できるように、まずは、2024年度は試行版として、第1章部分の写真資料の公開をおこなった。サイト内で検索できる仕組みとなっており、今後、第2章以降も資料を掲載していく予定にしている。(環境再生保全機構地球環境基金助成金)
<https://www.aozora.or.jp/ecomuse/data>
- ・ (公財)淀川勤労者厚生協会の資料整理は2023年度に実施した後、2024年度は取り組みは進められなかった。
- ・ みてアート2024(11/2-3)に、西淀川・公害と環境資料館(エコミューズ)として拠点参加し、企画展「写真でふりかえる 工業地域化する西淀川区一戦前・戦後から高度経済成長期まで一」を開催し、190人が来館した。1日目が土砂降りの雨だったため、昨年よりは少ない来館者数だったが、西淀川区が農漁村地域から工業地域へと変化していった様子を見てもらうことができた。また、あおぞらビル6階の書庫では、みてアートサテライト企画「みてみて」としてmizutama氏が西淀川区に響く音を利用した作品「Beneath The Blue Sky」を展示した。
- ・ 2024年度エコミューズ活動報告書を6月に発行した。
- ・ エコミューズでは設立当初から運営のための寄付集めをおこなっており、昨年度はとくに、資料集を作成するための寄付集めをおこなった。2024年度は652,710円の

ご寄付を頂戴した。資料集出版に向けては、300万円の寄付を目標に、どのように寄付を集めるかの検討をおこなった。

③成果と課題、今後に向けて

- ・ 資料集作成については2025年度の発行をめざして、作業を進めており、形が見えてきた。今後は、出版社を探したり、発行にかかる費用の寄附集めを本格的に始動する必要がある。
- ・ 事務所移転にともなって、膨大な資料をどのように移転先で保管をするのか検討し、準備していく。

2) 他地域や他団体との連携、資料保存・活用の支援

43 資料館連携

44 大気汚染と裁判HP

①事業のねらい

- ・ 各地での公害を伝える組織・個人の交流・連携・協働をめざす「公害資料館ネットワーク」に参画する。
- ・ 環境再生保全機構のホームページサイト「記録で見る大気汚染と裁判」の充実、及び、他の公害地域資料の整理・保存・活用を支援する。
- ・ 淀川勤労者厚生協会の所蔵資料の整理・活用。

②実施内容

- ・ 公害資料館ネットワーク総会（6月30日 オンライン参加）・幹事会への参加。

③成果と課題、今後に向けて

- ・ 引き続き、参加し、他団体と連携していく。
- ・ 環境再生保全機構との協議は進展がないままではあるが、独自で、資料を公開できる仕組みを並行して検討、準備していく。

II-3 公害経験を伝える国際交流

2024年度取り組み

- アジア地域への新たなネットワーク・交流に向けて、取り組む。
- これまで交流してきた中国の環境 NGO の現在の取り組み・これからの展望を把握し、あおぞら財団の国際交流活動における経験知としてとりまとめる。
- 国内外の公害・環境問題の専門家、NGO、個人との協働の下、資料の翻訳、情報発信、視察、交流、研修受入れなどを実施する。

71 国際翻訳基金

73 日中交流

①事業のねらい

- ・ 西淀川地域、及び、我が国の公害経験を世界、とりわけアジア地域の多くの人達に伝え、交流することで、新たな被害を未然に防ぎ、直面している公害・環境問題の解決に向けて取り組む。

②実施内容

- ・ 中国：夏休み 中国 李力さん 小中生 9 名が来日（7/30—8/6）日本の子ども達と交流し、ゴミ処理場や人と防災未来センター（神戸市）などを見学。
- ・ 国際交流ワーキング会議を 9 月 13 日（金）、2 月 13 日（木）に開催。
- ・ ベトナムから環境 NGO・Live&Learn メンバーの DO VAN NGUYET 氏（Director）と NGUYEN THI PHUONG NHUNG 氏（Citizen Science Program Coordinator）の 2 名を招聘（2025 年 1 月 22 日～24 日）。研修・視察・交流を行った。
- ・ 中国環境 NGO メンバーを招聘（3 名、来日 10 人）、2025 年 2 月 12～14 日に研修・視察・交流活動を実施。日中環境問題サロン（2 月 13 日）を開催（会場 16 名、オンライン 18 名）。
- ・ インドを訪問（2/25～3/5）し、昨年度に引き続き、デリーにて環境活動を行っている弁護士事務所（LIFE）の Rahul Choudhary 氏にヒアリングを行う。また、国際労働機関（ILO: International Labour Organization）デリー事務所にて、川上剛氏からヒアリングを行った。

③成果と課題、今後に向けて

- ・ 中国から環境 NGO とともに、初めて子ども達の訪日・交流を行うことができた。
- ・ ベトナムからはじめて来日いただき、交流活動を行うことができた。
- ・ 2 回目のインド訪問により、今後の交流・ネットワークづくりの方向性を確認できた。

Ⅲ. 情報発信・提案活動・交流

1. 情報発信

1) ホームページ、フェイスブック

【概要】ホームページでは、各事業の取り組みを中心に更新しており、フェイスブックとツイッターと連動させることで、情報を広く伝えられるように努めている。

【実績】ブログは65件の記事を更新している。フェイスブックページは1,222人、ツイッターは858人からフォローされている。

2) メール、メーリングリスト

【概要】活動報告及びイベント案内をまとめた「月刊あおぞら」を発行している。また、イベントごとに「あおぞら express」を発行し、参加を呼び掛けている。

【実績】「月刊あおぞら」、「あおぞら express」 2,280人に発行している。

3) 機関誌りべら

【概要】会員および西淀川区内の地域住民に対して、各事業の報告、財団の事業に関わる情報、行事のお知らせ、西淀川区の地域情報から構成する機関誌りべらを発行する。

【実績】2024年度は年3回発行(各2,000部)。7月号「2023年度あおぞら財団年次報告」、10月号「人の顔が見える防災」2月号「にしよどオリンピック」を発行。

4) 年次報告書

【概要】財団の事業と活動をわかりやすく報告するため、財団事業の1年間の事業概要と各事業における特徴的な事業を取り上げた年報を発行し、賛助会員への配布、HP上での公開を行う。

【実績】機関誌りべらとして発行することにより、西淀川地域住民にあおぞら財団の活動内容を伝えることをめざした。事業ごとに2023年度の取組みを2ページで紹介した。また、財団役員および協力者からの一言コメントをもらった。

2. 提案活動

- 各種計画へのパブリックコメントや選挙時の公開質問状提出などの提案活動、様々な公害・環境問題に関する情報、財団活動に関する情報の発信を進める。

3. 交流

- 各事業に個別に協力を得ている研究者のネットワーク化をはかり、財団が市民と研究者団体をつなぐパイプ役を果たせるような仕組みづくりをめざしている。
- エコネット近畿・ESD近畿会議への参加。
- 公害被害者総行動デーは、オンライン開催となり運営の協力をおこなった。その他、2月の公害デーへの協力をはじめ各地の公害被害者団体や、地域の環境再生に取り組む団体や市民との交流をすすめる。
- 西淀川区との協働(西淀川区と民間企業等との共創に関する提案事業)、気候ネットワークや公害環境デーの実行委員としての活動、日本野鳥の会、ECO まちネットワークよどがわをはじめとする地域の各種団体との協働、連携を続けている。

4. 対外活動

- 西淀川区区政会議委員（鎗山、2017年～2020年、藤江、2021年～）
- 西淀川子どもセンター理事（藤江、2013年～）
- 社会福祉法人あゆみ福祉会監事（村松）、理事（藤江）として参加
- 公益財団法人淀川勤労者厚生協会理事（藤江）として参加（2020年～）
- 西淀川区地域福祉計画推進委員（藤江、2018年～）
- 西淀川区子育てを応援する担い手育成・地域連携事業 委員（谷内、2018年度～）
- 向日市地域公共交通会議 委員（谷内、2014年度～）
- 城陽市地域公共交通会議 委員（谷内、2016年度～）
- 香芝市地域公共交通会議 委員（谷内、2019年度～）
- 堺市地域公共交通会議 委員（谷内、2020年度～）
- 堺市地域公共交通活性化協議会 委員（谷内、2022年度～）
- 大阪市路上喫煙対策委員会 委員（谷内、2020年度～）
- 滋賀県都市計画審議会 委員（谷内、2024年度～）
- 東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会委員（藤江、2010年度～）
- 2024年公害環境デー実行委員（谷内）
- 西淀川フードバンク実行委員会（鎗山）
- 西淀川公害患者と家族の会 監査（谷内、2022年度～）

5. 財団活動に関する主な報道、表彰・顕彰など

1) 主な報道

日にち	報道機関	見出し
2024年12月7日	読売新聞	記憶を引き継ぐ<下>行政頼らず 歴史伝える 西淀川公害訴訟 研修の拠点にも

2) 表彰・顕彰など

- にしよど親子防災部 令和6年度地域福祉推進功労者表彰

IV. 組織

1. 理事会、評議員会

- 理事会＝第 48 回（2024 年 5 月 27 日）、第 49 回（2024 年 10 月 1 日）、第 50 回（2025 年 3 月 7 日）
- 評議員会＝第 14 回（2024 年 6 月 20 日）

2. 事務局（研究員・特別研究員）

- 運営体制の充実のため、理事長・理事・事務局長等が参加する常務会を定期的に行い、全体方針の検討をおこなった。
- 毎週 1 回の事務局会議を実施（ZOOM アプリを活用したオンラインも併用）。事前の議事提案と進行を事務局長が行い、記録を作成し、事務局全体で情報を共有。事業の進捗状況や今後の事業展開、重要事項の素案づくり、業務体制に関する調整、組織運営のあり方などを全員で討議した。
- 2020 年度 10 月に設置した外部相談窓口（桑野里美氏）の継続
- 2023 年 10 月 29 日理事会にてあおぞらビル移転検討を行うことを決め、11 月 20 日よりあおぞらビル移転検討会議を開催（2024 年度は 4/9、5/13、7/3、8/28）。
- 2024 年度は 3 名の研究員（正職員）の体制で取り組んでいる。

3. 会員

- 会費納入のあった会員数は個人 93（105 口）、学生 0（0 口）、法人 13（31 口）、団体 9（28.5 口）で、受取賛助会費は、1,120,000 円である。（2025 年 3 月 31 日時点）

4. ボランティア、アルバイト・スタッフ

- ボランティアについては、「りべら」発送など具体的に業務のある際にメール通信「あおぞら EXPRESS」を活用し参加を呼びかけている。
- 研究員の事業をサポートするアルバイト・スタッフについては、活動を進める上で大きな力となっている。

5. インターンシップ

- インターンシップ生は、近畿大学から 1 人を受け入れた。サイクルピクニック、研修等の事業に参加した他、自分の関心分野についての調査、提案に取りくんだ。

V. 財務

- 2024 年度は基本財産の取崩をすることなく決算を終えることができた。
- 事業活動収支差額は 274,905 円のプラスとすることができた。
- 当期収支差額は 389,805 円のマイナスとなっているが、これは、寄付金 1,414,920 円のうち資料集作成のための寄付 652,710 円をすべて特定資産に積み立てたためである。